

平成三十年度 東京都立大泉桜高等学校卒業証書授与式 校長式辞

卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。

御来賓の皆様には、御臨席を賜り、このように盛大な卒業証書授与式を挙行できますこと、厚く御礼申し上げます。

また、保護者の皆様には、立派に成長されたお子様の晴れ姿を御覧になり、さぞ胸を熱くされているのではないかと拝察いたします。

お子様の御卒業を心からお慶び申し上げます。

卒業生の皆さん。皆さんは、三年前の春、不安と期待を胸に本校の門をくぐりました。本校、東京都立大泉桜高等学校は、平成十七年四月、東京都立大泉北高等学校と東京都立大泉学園高等学校が発展的に統合され、大泉北高等学校の敷地に開校しました。母体校となった両校の特色を継承し、「美術」「福祉」「情報」の三つの教科を柱としたユニークな教育課程を編成する、練馬区で初めての全日制・普通科・単位制高校としての誕生でした。

本校の教育目標には、「社会の変化に対応し、生涯に亘って学び続けることができる主体的な生徒を育成する。」とあります。すなわち『主体的な学び』ということです。これに基づき「豊かな感性や思いやりの心を身に付け、生命を尊重し、責任感と規範意識を持つ『社会に貢献』できる人物を育成する。」という強い思いが込められています。そして、一人ひとりが「自らの在り方、生き方を考え、将来への意欲や目的意識を持つ『自立』した社会人となる。」

すなわち、3つのキーワード、『主体的な学び』、『社会貢献』、『自立』が本校の目指すところであったわけです。

君たちが受けた様々な「授業」をはじめ「学校行事」、「部活動」、また本校独自の「キャリアガイダンス」これらはすべてこの目標のもとに実施されてきました。そして今、君たちは『自立』の時を迎えるとともに、本校十二回目の卒業生、十二期生として立派に巣立とうとしています。

さて、平成最後の本校卒業生である君たちにこの言葉を贈ります。

「順境にて自重し、逆境にて（なお）笑みを忘れず」

順調な時は言動を慎んで軽はずみなことはせず、苦しい時ほど笑みを忘れないという意味です。これからの君たちの人生には様々な場面があると思います。順調な時もあれば、苦境に立たされる時もあるかもしれません。そして苦しい時ほどその時間は長く感じられるものです。もし、その逆境を「笑顔」で過ごすことができたなら、自分だけでなく周りの人たちも幸せにできることでしょう。君たちの穏やかで朗らかな普段の様子からもきっと賢く、そしてしなやかに苦境を乗り越えていくものと信じています。そしてそれら逆境を乗り越えた先、君たちは見事に成長を遂げています。

「順境にて自重し、逆境にて（なお）笑みを忘れず」

卒業生諸君。およそ、卒業式の意義は、先輩たちが、築いてくれた輝もかしい伝統を、しっかりと受け継ぎ、それをさらに発展させ、社会に貢献できるよう、自らに誓いを立てること。そしてこれまで君たちを支えてくれたすべての皆様に感謝することにあります。

創立より本校の卒業生は、すでに二千名を超え、諸先輩は、様々な分野で活躍されています。君たちは、これに続き、未来を創造していく社会の一員となります。一人ひとりの個性を大切にす本校で学んだことを誇りに、これからの人生を歩んでください。感謝の気持ちを忘れずに。

結びに、本日ご参会の皆さまをはじめ、これまで卒業生と本校の教育活動に温かなご理解と御支援をいただきました関係の皆様に、心から感謝申し上げ、式辞といたします。

平成三十一年三月九日

東京都立大泉桜高等学校長

亀崎 隆彦